

## デザ研に新たなる新風 新4年生メンバー来る

text\_hiraoka

都市工学科・都市計画コース4年生の卒論研究室が決まりました。新しく都市デザイン研究室に配属になった4年生は6名。6月19日には第二回目の卒論会議が行われました。マガジン編集部ではもはや恒例、アンケートを配布して、好きなまちや卒論に向けた抱負など、4年生の思いを聞きました。

| 氏名              | 山崎 哲      | 中島 和也               | 柴山 浩紀         | ゲン<br>ヒュー クワ<br>ン                                    | 根岸 勇太   | 香川 美菜                      |
|-----------------|-----------|---------------------|---------------|--|---|----------------------------|
| 出身地             | 桜上水       | 熊本県                 | 香港            | ベトナム・ハノイ   | 神奈川県葉山町   | 千葉県                        |
| 趣味・特技           | リズム       | 秋葉原を歩くこと。           | 特になし。(写真)     | 読書・映画鑑賞  | 海で潜って貝を獲る。浮いて漂う。  | ダンス・日本文化                   |
| 好きなまち行ってみたいまち   | 鎌倉・ドイツ    | 秋葉原。こんなに刺激的なところはない。 | グラスゴーに行ってみたい。 | 東京が好きです。北海道に行ってみたい。                                  | 葉山町が好き。海や山、たくさんの遊ぶ場所、それらをつなぐ古い路地構造などがある。                      | 南のビーチ。静かなところだから。           |
| 座右の銘            | リズムにのるぜ！！ | 優柔                  | 長いものに巻かれる     | 「我が辞書には不可能という言葉はない」ーナポレオン                            | 清く正しく美しく。Be honest. Be positive.                              | Quand je veux, je peux.    |
| 都市工・デザ研を選んだきっかけ | 進振り       | パースを描きたいから。         | 進振り           | デザインが好きだからです。  | 風景・景観を考えるのが好きですが、それを考える上でも都市側から考えた方が実際有効なツールを身に付けられそうだと考えたから。 | 保全・保護に興味があった。西村先生の授業がきっかけ。 |
| 卒論に向けての意気込み     | デザインします。  | 迷走                  | マイペース         | 設計をやるつもりです。都市のあるべき姿について考え、自分なりに整理し、良いデザインができればと思います。 | がんばります。   | 頑張ります。                     |



**卒**論会議後、八時から東大正門近くの居酒屋で、四年生歓迎会が行われました。先生方からお言葉を頂いて乾杯したあとは四年生の自己紹介。いきなりで緊張気味の四年生ですが、院生からさまざまな質問が飛び、会場は盛り上がります。少しずつ四年生もうちけてきた様子で、それぞれのテーブル

では卒論のこと、院試のこと、大学院生活のことなどなど、今度は四年生が先輩たちに質問。会話は尽きず、二時間の予定が大幅に伸びて終わったのはけっきょく日付が変わるころでした。四年生はこれから二月の発表まで、卒論会議を重ねながらテーマを固め、論文や設計を完成させます。



# 喜多方「くらはく」へ向けて準備着々と進む

柏原 沙織(空間計画研・M1)

6月23～25日にかけて、今年度2回目の訪喜がありました。今回の目的は、のれん企画、蔵のまちづくり博覧会(くらはく)、蔵サイン計画、それぞれに関する調査と企画の詰め。私も担当ののれんチームでは対象区間の軒先を見て回り、実際ののれんの掛け方を検討しました。GW中の初めての訪問では先輩方に連れられて徒歩での移動でしたが、今回はレンタサイクルで回ったことで、喜多方のまちの大きさが何となく分かってきました。

特に印象的だったのは、調査の途中見つけた水田の美しさ。まち歩きを兼ねて駅から徒歩圏の集落に行ってみつけました。

詳しい訪問記はブログに書くということで、ここからは私が二回の訪喜で見つけたツボを紹介します。

## ①相当古びた看板+廃墟寸前の建物。

得体の知れない何年も掃除されないままになっている物置は面白スペース。(写真上)



## ②奥に長い蔵によって生まれる長〜い路地。

小川が流れていたり、緑が溢れていたり、すぐ行き止まりだったり…と色々なので、覗き込むのがとても楽しい。

## ③時々現れる標語。

今回見つけたヒットは「下水道みんなで参加 蔵のまち」。これから訪問を重ねて、更に色々発見して行きたいです。



のれん景観実験の試し掛け

また、中学生による市内の蔵調査を支援しているデザ研ですが、今回は喜多方市内の3つの中学校で、蔵の構造や種類など基礎知識を野原助教が講義。終了後にはお礼状を頂く場面も。翌日は「福島民報」の新聞記事で取り上げられました。

右/新聞記事

下/講義終了後お礼状を頂く



# マガジン創刊者酒井さんからの激励

text\_shiozawa

マガジンの50号を祝してマガジンの生みの親であり初代編集長の酒井さんから西村先生と編集部一同宛に激励のお言葉を頂戴しました。掲載が少し遅れてしまいましたが、ここで紹介させていただきます。新編集部員一同、応援して下さる皆様のご期待に沿えるよう日々精進していきたいと思ひます。

西村幸夫先生

都市デザイン研マガジン、第50号おめでとうございます。2年間に回顧し、「通信簿」でエンカレッジ採点をなされつつ、「定期発行を、死守せよ。」のおことばはさすがでございます。創刊号以来まもなくして絶大な西村先生のご支援に感謝いたしております。編集部一同もおことばをかみしめて、さぞかし感激とともに決意を新たにしていることと思ひます。坂内編集長も編集長交代、機が熟したのですね。名編集長でした！当初からのさまざまなこと、ハノイ報道、研究室各プロジェクト報告と現地ルポ、北澤猛新領域教授就任、オグスタン・ベルク本郷歩きと特別講義、月2回の編集会議や坂内・酒井サシの午前様編集会議、永井OG宅の赤ちゃん訪問などが次々と思ひ出されます。

坂内良明編集長様 ・編集部スタッフ各位

都市デザイン研マガジン、第50号おめでとうございます。アップ直前の空気が伝わってきて、ありありと研究室の活動を知り得る高揚感がいつも以上に高まり、パソコンを開いて待っています。編集部も7名という空前絶後?! 編集デザインもみなさんの専門手腕で精緻をきわめ、東大各メディア中のお色として、陣容、誌面とも黄金時代を築かれました。感嘆しております。中島、野原教官はじめ院生みなさまのご支援に感謝いたしております。

前編集長 酒井憲一

# 2007年度第6回研究室会議

text\_shiozawa

6月19日、802会議室で第6回研究室会議が開かれました。今年度からは博士課程の面々も研究室会議の場で研究の発表をしています。発表の端々に現れる、月日の積み重ねの結晶と輝ける重い言葉たち、そして教授陣との議論が、修士のメンバーにも刺激を与えてとても凝縮した時間となっています。

- D1Le Quynh Chi” Village Tourism And Conservation Of Indigenous Environment-A Case study of villages in Vietnam-”
- D1Tiamsoon Sirisrisak” Cultural Landscapes of Asian Cities”
- D2中島伸「戦災復興区画整理事業区域の空間特性に関する研究」
- M2鄭一止「住民まちづくりによる歴史的町並みの保全への可能性に関する研究-韓国ソウル北村地域の韓屋まちを事例にして-」
- D3岡村祐「我が国における眺望景観保全の思潮・制度に関する研究」

編集後記 text\_shiozawa

新宿プロジェクトは今年に入ってM1も含め、研究室のどのプロジェクトよりマンパワーをさい取り組んでいるプロジェクトでありますけれども、わたしはM2にしてようやく少しは「構造図」というものがかけるようになってきたのかも知れないと、思っていたりします。(まだ曖昧な部分も多々ありますが)構造図を巡って白熱した議論を戦わせるにしてもその内容がどうやら成長しているらしいと、ぼそりと博士の方の言葉を耳にしたり。研究もろくに進まないまま、この1年が何ものだったかと猛ダッシュで走りすぎた後に残ったその言葉は、じんわりとM2にして夏を迎えるわたしの心に響いたのであります。